

研修から見える中学校技術科の授業改善の視点

1 はじめに

授業改善のための視点、具体的手立てとは何でしょうか。教育センターからのアプローチとして、今年度はまず二つの視点に目を向けて研修内容を組み、手立てを工夫することで「授業改善」という目標達成にせまりました。

授業改善に向けた研修構想段階における二つの視点

- 授業改善
- ①一単位時間の授業を組み立て、実践する力の向上 → 中学校経験者研修Ⅱで実施
 - ・・・授業改善テーマに沿った指導案作成と模擬授業の実践、その後の振り返りを通して
 - ②教員自身の、ものづくりに関する専門的技術の向上 → 専門研修「ものづくり技能アップ講座」
 - ・・・技能五輪出場者を育てているベテランの建具職人を講師に招いた角椅子づくりを通して

2 二つの視点に基づいた研修の実際

視点①について・・・Web 掲示板による事前研修の充実で、模擬授業およびその後の振り返りに力点を移行！

忙しい学校、限られた研修期間、この制約条件の中で「少しでも授業改善に資するには？」と考えた結果、下記に示した Web 掲示板による事前研修の充実を図り、模擬授業、そしてその後の振り返りに力点を移行しました。

Web 掲示板を用いた事前研修によって、研修当日が充実！

学校での事前研修

- 1 各自の授業改善テーマに基づいた指導案作成
- 2 研修者内だけの Web 掲示板に指導案を公開
研修者、指導主事から Web 上で各指導案にアドバイス
- 3 各自のアドバイスに基づいた指導案の再検討及び改善

指導案を見合うことで、模擬授業内容について事前に共通理解

センター研修当日

- 4 すぐに改善指導案による模擬授業の実践が可能に！
 - ・改善指導案による、より質の高い模擬授業が可能に！
 - ・事前研修によって、授業を見る目がより深くかつ鋭く！
- 5 模擬授業後の振り返りの時間が充実！
(研修者、指導主事、教科相談員を交えての研究協議)
 - ・時間的に余裕が生まれ、内容的理解が深いものに！



研修者の感想から

(1) Web による事前研修について

- ・参加者同士の考えや学びたいこと等について事前に知っておくことは、研修を進める上で潤滑油となった。
- ・自信が持てない部分についての的確なアドバイスをもらうことができたと同時に、お互いのやり取りを通して新たな視点から考えることができた。
- ・Web 掲示板を用いることで、時間に縛られることなく自由に見ることができてよかった。

(2) センター研修当日について

- ・模擬授業の中からもたくさんの課題が生まれ、それについてみんなで話し合えたことがよかった。
- ・振り返り（リフレクション）の時間をもつことは意義深く、今後の授業研究に生かしていきたいと思えます。
- ・題材を見つめることは非常に大切であり、深い考察が必要であることを学びました。

研修を通して見えてくるもの

(1) Webによる事前研修への取組みから

・指導案作成段階で互いにかかわることで改善が促され、より洗練された指導案での模擬授業実践が可能に！

→ 校内における授業研究の際、指導案作成過程では一人で悩む場合がほとんどかと思えます。技術科の先生がいなくても、他の教科の先生方からの多様な見方、考え方に耳を傾けることで、洗練された指導案になり、授業改善につながっていくことが期待されます。

・時間に縛られない意見交換の手だての工夫によって、より洗練された指導案での模擬授業実践が可能に！

→ 今回、センターと学校が離れていること、時間的調整が難しいことからWeb掲示板という手立てを講じました。一番よいのは「face to face」で授業案検討ができることです。しかし、常に忙しい学校では、同じ空間内においても授業検討会を開くこと自体、困難が伴いがちです。そこで、今回のようにデジタル活用も一つですが、付箋に感じたことなどを簡潔に文章にまとめ、やり取りするなど時間に縛られないやり取りも有効な手立てと考えられます。

(2) センター研修当日の模擬授業への取組みから

・最終目標を「模擬授業」から「振り返り充実」に移行！

→ 今年度の研修では、まず模擬授業を実施し、それを素材として分析的に見ていく「振り返り」に重きを置きました。授業研究ではどうしても授業実践そのものが目的となり、その後がおろそかになりがちです。今回、実施した模擬授業について質問の意図、仕方等について一つ一つ振り返ることで、研修者自身本当の意味での「授業研究」を実感したようです。

視点②について…ものづくりの世界が一変！ プロ職人による研修環境に身を置くことで確実に技能が向上！

実践的・体験的学習を中核とする本教科。授業力向上には、専門性に裏打ちされたものづくりに関する高度な技の習得が第一と考え、プロの建具職人を講師に招いての専門研修を企画しました。題材は角椅子づくりでした。



研修者の感想から

- ・ものづくりの奥深さ、難しさ、喜びを味わうと同時に、ものづくりに対する自信が持てるようになりました。
- ・椅子の製作を通して、道具や治具の準備、手入れがどれほど重要かを実感することができました。
- ・木工基礎から匠の技まで奥深く、難易度の高い内容でした。実際の指導に通じる部分がたくさんありました。

研修を通して見えてくるもの

・授業改善の第一歩は、教師自身がものづくりの楽しさ、真髄を知ることから！

→ 人間、本当の楽しさを知ると自ずと人に伝えたいくなるものです。各研修者ともプロの技に触れ、難易度の高い製品製作を通して、自分を振り返ると同時に、明日からのものづくりの授業に対する意欲が確実に向上したようです。

・プロの高度な技を支えているのは、やはり基礎・基本の徹底であることを改めて実感！

→ プロ職人の高度な技を目の当たりにするとともに、その背景には道具および機械類の丁寧な整備、寸分くるわぬこだわりのけがき、治具の効果的な活用など生徒たちに身に付けさせたい基礎・基本がたくさん隠されていました。

3 おわりに

今回、授業改善について二つの視点から、研修を通して見えてくるものについて考えてみました。二つの視点に共通するのは、いずれも「他の人々とのかかわりを通して」ということではないでしょうか。組織人でありながら、日々、個別的な取組みの多い教師である私たちは、自分一人では授業改善もなかなか難しいのが現状です。是非、身近な職員室の教職員、地域社会の人々、そして教育センター等のネットワークをフルに活用して、授業改善に取り組んでほしいものです。